

◎議長（菅根光雄議員）

皆さん、おはようございます。出席議員も定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

この際、社会教育課長より、発言の申し出がありますので、これを許します。社会教育課長。

◎社会教育課長（間宮健一君）

貴重なお時間を頂戴いたしまして、誠に申し訳ございません。平成23年度決算書と一緒にお届けしております平成23年度主要な施策の成果と予算執行の実績報告書の一部に記載の誤りがございました。正しくは皆様のお手元に配布させていただきました正誤表の通りでございます。お手数をおかけしますが、ご訂正下さいますようお願い申し上げます。また深くお詫び申し上げます。大変申し訳ありませんでした。

今後、このようなことの無いよう注意いたしますのでよろしくようお願い申し上げます。

◎議長（菅根光雄議員）

本日の会議は、議事日程第3号によって進めます。日程第1、「一般質問」を行います。発言通告のあった方は、3番 塩原未知子議員、4番 星川睦子議員、5番 青野隆一議員、7番 菅野修一議員、10番 石塚ミツ子議員、13番 伊藤精一議員、14番 加藤克彦議員、15番 大類準一議員、以上の8名であります。発言の順序は、議長より指名いたします。なお、質問・答弁を含め、1議員1時間の持ち時間制となりますので、質問に対する当局側の答弁は、質問者の時間制約もありますので、ご協力をお願いいたします。

まず、3番 塩原未知子議員の発言を許しますので、登壇を願います。塩原未知子議員。

〔3番 塩原未知子議員 登壇〕

◎3番（塩原未知子議員）

おはようございます。一般質問初日の冒頭、一言申し上げます。この夏、本市出身の佐々木則夫監督率いるなでしこジャパンの皆さんがロンドンオリンピックで見事金メダルを獲得いたしました。誠にめでたうございます。悠美館でのパブリックビューイングや、子どもたちの応援メッセージ、故郷からの厚い応援がロンドンまで届いたのだと思います。8月21日、尾花沢花笠祭りのステージで監督自ら銀メダルの獲得の報告をしてくださいました。母校尾花沢小学校の子どもたちのみならず集まった1,500人の観衆に勇気と希望を与えてくださいました。高い目標を持って仲間を信じ、自分を信じてがんばれば必ず夢は叶う、この感動はなでしこたち、女子選手の粘り強さと、それを率いる監督の指導力の賜だと思えます。オリンピック期間

中、選手達と監督と一緒に試合を一喜一憂できた充実感は私にとっても宝であります。ありがとうございました。佐々木監督のさらなるご活躍を御祈念いたします。

さて、オリンピックの応援と尾花沢すいか一色の暑い夏が過ぎましたが、まだまだ残暑は厳しく今日も自然エネルギーの風が涼しい尾花沢市議会の議場から3.11の東北大地震から約1年半、活気ある元気なまちづくりを一日でも早く取り戻すために、通告に従い質問いたします。

はじめに、尾花沢市の6次産業支援について、質問いたします。

豪雪で作付けが遅れ、大変心配された特産の尾花沢すいかも、記録的な猛暑で今年も大好評。旬の時期、市内各所の産直店が繁盛したと聞きました。通年産直販売をしている道の駅尾花沢を筆頭に、土日だけ開催の朝市、商店街の夕市、祭りやイベント会場での物産展、市内幹線道沿いに立ち並ぶ「尾花沢すいか」の産直店があります。安心安全な農産物が購入できるとあって市外での定期市の参加等も盛んになりました。また、各地でのトップセールスの効果もあってか、名物の尾花沢すいかだけでなく、新鮮な食材やそれを使った加工品を販売する市内の産直情報が欲しいという声を今年は数多く尋ねられたような気がします。

そこで、お盆の頃、肘折温泉の名物朝市を視察してまいりました。雨でも朝5時から開催される朝市は大変活気がありました。周辺の店舗も朝市にあわせて早朝から開店し、そのにぎわいはまるでお祭りのようでした。また、新庄市で今年の7月から始まった、毎月第3日曜日の産直市「キトキトまるしえ」も好評だそうです。地元の若手グループ「おらだの会」のメンバーが尾花沢すिकाを販売したそうで、大好評だったそうです。市内でも今年新たに銀山温泉の若手グループ「同土隊」のメンバーが地元農家の産直市をお盆の頃企画実行しました。みなさんご存知だったでしょうか。

宣伝告知は、必ずしも十分でなかったように思います。尾花沢には夏期間中のガイドができる産直マップのようなものはありません。今後定期的な市を含め、季節やイベントの産直を広報するうえで、尾花沢産直マップなどを作成する考えなどありませんか。あれば具体的にお知らせください。

また、尾花沢の6次産業をPRのために生まれたヒーローとして、市役所の若手職員が発案して昨年のふるさとCM大賞の制作現場から誕生した、尾花沢すいか、漬け物、尾花沢牛の美味しさを世の中に広めるた

めに生まれたスイカレッド、ペそらイエロー、ベゴブラック「おばね特産隊ごっつお3」の活躍が今年の夏はさらにパワーアップし、元気な尾花沢を全国にアピールしてくれました。「ABESAまつり」「尾花沢すいか出荷式」ではヒーローさながらの大活躍で、寸劇あり、花笠踊りあり、今後ますますの楽しい特産隊の活躍です。今までの出動の様子等、お知らせいただきたいと思います。また以前から活躍しているスイカのキャラクター観光大使の「もとなりくん」や、市のイメージキャラクター「雪ごろう」の着ぐるみなどを活用して、市役所の若手職員の現場教育のために、これから積極的に活用し、彼らの活躍の場をつくっていく考えはございませんか。今後の活動などありましたらお聞かせください。

2番目に発祥地の花笠まつり文化の継承について質問いたします。8月27日のまつり行列パレードは猛暑の中、新町の囃子屋台、桙町の奴踊りが町内を練り歩き、終了直前にゲリラ豪雨にあいながらも、終盤カラリと晴れ上がり、夕日が輝く中、1500人が参加した佐々木監督のロンドンオリンピック報告会が各社報道陣がつめかける中、無事に行われました。8月28日メインの花笠大パレードは平日にもかかわらず、踊り手は過去最高の3000人と公式発表があり、安堵しているところです。その反面、例年行われている発祥地の徳良湖から土をパレード会場の商店街に運び、昔ながらのスタイルでどん搦きを披露する開会の儀式や、祭り会場でいつも流れている小唄が流れておらず、発祥地のこだわりと、良き伝統の継承がいま一つ欠けていたように感じました。山形市の花笠まつりは今年50周年記念を迎えると聞きます。やまがた花笠の半世紀の伝統をしっかり打ち出して華やかに盛大に祭りを終了したようです。比較してあらためて、尾花沢の花笠音頭、笠踊り発祥地の尾花沢は、単なる集客のための「文化の伝統」ではなく、次世代にどう語り継いでゆくのかの「発祥地のこだわり」をまずは明確にする必要があると強く感じたところです。

市長は、地元の人々が楽しく参加できる祭りこそが、ひいては観光に繋がると常々おっしゃっておりますが、私もまったく同感です。その思いの中で今年はどういう方々をターゲットとして広報、集客を図りましたか。当局におたずねします。

また、今年スゲ笠が不足の緊急事態が発生したというのを聞きました。はじめて海外から笠を輸入したとも聞きました。私が花笠おどりを踊りはじめた頃は、代々受け継がれる木枠に和紙を丁寧に張り合わせ、赤

い花紙で一つ一つ手作りの花を付け、女子は笠回し踊りでなく、円陣を組んで手踊りを踊った記憶があります。もともと大正時代、農作業で使う日よけの笠は地元で産地消していたはずですが。時間はかかっても市内の休耕田を活用して笠の材料であるスゲの栽培から花笠生産まで、「発祥地尾花沢の花笠」を産地消するお考えはありませんか。「おばなざわ花笠まつり」の伝統を発信するうえで、今年の反省点と評価、今後の「おばなざわ花笠まつり」の展望をお聞かせください。

3番目に行政に関わるイベント告知宣伝について質問いたします。インターネット時代となり携帯電話やスマートフォン i P a d のナビ機能など行政も一部の業務に関しては迅速な情報発信と頻繁な更新が求められています。最近ゲリラ豪雨のように落雷や集中豪雨、河川の増水による山間部の通行止めなどで災害につながるケースもあります。避難場所への正しい情報誘導や冬期間の道路情報の発信など、特に車社会の旅行者に向けたタイムリーな告知が大変不足していると感じる今日この頃です。カーナビなどのガイドによって、未だ村山方面から銀山温泉へ来られるお客さんにおすすめルートとして、冬期間閉鎖の背炙峠を指示するものがあるそうです。野外イベントでの宣伝告知を含め、現在どのようなことに気を配って会場の道路案内を発信していますか。お聞かせ下さい。観光でいらっしやっただお客様を含め、祭りやイベントの参加スタッフに対しても適切な情報共有が必要になります。先日尾花沢花笠祭り行列の最中にも突然のゲリラ豪雨がありました。緊急事態の告知など、イベント会場の現場での対応をお尋ねします。

4番目にインターネット議会中継について質問いたします。現場のタイムリーな情報発信といえば9月の定例会からインターネットによる議会中継が行われています。議場で直接傍聴できない方もインターネット中継により、世界中どこからでも議会を視聴可能になりました。初日3日の中継はホームページ訪問者が公式サイトからの積算ですが、200件でした。6月定例会で中継することが決まり、当局の迅速な対応、努力により早期実現できたこと、大変嬉しく思います。短い期間の準備のため、一番の視聴者である市民へ向けてどのような周知を行いましたか。問題点、改善すべき点、今後の課題などありましたら報告をお願いいたします。

最後に次世代エネルギーパークについて3つの質問をいたします。猛暑の中、庁舎西側の雪山には9月に

入っても残雪があり、今日も庁舎1階と2階の一部は雪冷房による冷風のため室内は快適なようです。雪冷房プロジェクトの実績と、今後の市民への普及を含めた尾花沢市での再生可能エネルギー活用の可能性と展望をお聞かせください。しかしながら、まだまだ残暑が厳しいようです、庁舎内には、ここ議場をはじめ、冷房がまったく整備されていない部署も多数あります。記録的な猛暑の中、体調不良になった職員等はおりませんでしょうか。庁舎内ではどのような熱中症対策を講じているのかぜひお聞かせください。

次に徳良湖温泉の雪冷房の課題と今後の展望についてお聞きします。徳良湖温泉花笠の湯に、現在敷地内に雪室や太陽光発電のパネルが整備されています。しかし、以前より美容にも良いとされ大変好評だった脱衣所の雪冷房の送風はいつの頃からか流れておりません。太陽光発電設備と雪室の使用状況、今後の展望などお聞かせください。

最後に、今年3月に「大正ロマン再生可能エネルギーパーク」として経済産業省から次世代エネルギーパークが認定されましたが、半年経過した進捗状況や、「大正ロマン」と冠をつけた銀山温泉において今後の展望についてお聞かせください。

豪雪に苦しんだ尾花沢の冬も、時ならぬ残暑のときに雪冷房で心地よく、やっかいものの雪のありがたさが夏になり身にしみます。次世代エネルギーのあり方を考えたとき、どこにもない発想力と実行力で「雪とスイカと花笠のまち」の自然エネルギー資産をフルに活用して、尾花沢が本当にどこよりも暮らしやすいと胸を張って言える、雪に困らないまちづくりの夢を描きながら、いつか叶う。それを現実にするため努力してまいりたいと思います。

以上、壇上からの質問はこれで終わりますが、必要に応じて議席からの発言をお許しく下さい。では当局の誠意あるご答弁、よろしくおねがいたします。

◎議長(菅根光雄議員)

市長。

[市長 加藤國洋君 登壇]

◎市長(加藤國洋君)

ただいま、塩原議員からは大きく5項目についてのお尋ねを頂戴いたしました。順次、お答え申し上げます。

まず、最初に6次産業支援についてのお尋ねでございます。尾花沢すいかは、栽培技術の確立、農家の皆さんや関係者のご努力により、今では「夏すいか」生産量日本一になるまでになりました。また、寒暖の差

が大きい等の気候条件にも恵まれ大変美味しく、厳しい品質管理等により市場関係者に絶大な信頼があり、全国的にも知られるようになりました。

直売所の実態把握はされているのか、とのご質問がありますが、販売に係る産地表示義務等の徹底を図るため、市内全域の露店や産直を8月上旬のスイカ時期に合わせて巡回指導をしており、その際に場所や出展者を把握してございます。「すいか」をメインにした直売所の店舗数は、尾花沢地区で12店舗、福原地区8店舗、宮沢地区2店舗、玉野地区9店舗、市内全体で31店舗となっております。

毎年、北村山農業技術普及課では通年営業の店や、春から秋までの期間に直売所や朝市を行っている北村山エリアの店を網羅した『ジョイフル産直マップ』を作成しております。また、村山総合支庁ではエリア管内における『おいしい山形産直マップ』を昨年の秋に発行し、ホームページでも情報を発信しており、当局においては3団体が登録されてございます。

しかし、塩原議員仰せの、尾花沢すいかの時期だけ販売する直売所につきましては、個々の場所をマップで表示するのは困難かと思われまので、例えば『福原スイカロード』のようなエリア表記が好ましいかと思われま。

また、産直ロードマップを作成することにより、観光客の増加等が見込まれることから産直協議会等を立上げ、品質管理の基準を作るなど産直関係者と協議して参りたいと考えております。

次に「おぼね特産隊ごっつお3」について申し上げます。本市の若手職員が尾花沢市の名産品をご当地ヒーローとして登場させたのがスイカレッド、ペソライエロー、ベゴブラックのいわゆる「おぼね特産隊ごっつお3」であります。これは、平成23年度「山形ふるさとCM大賞」の制作過程の中で誕生したキャラクターであります。この制作につきましては、職員研修の一環と位置づけ、16名の若手職員が試行錯誤を重ね完成させたものであります。

今年度の制作につきましても、昨年度と同様、研修の一環として若手職員を中心に取り組んでいただいているところでございますが、このように職員自らが考案したものは、おのずと愛着が湧き、外に対しても自信を持って発信できるのではないかと捉えてございます。

お尋ねの、「ごっつお3」の衣装を着用しての若手職員によるイベント参加につきましては、3月10日・11日の「郡山元気発信フェスティバル」、7月26日～28日の

「まるごと尾花沢フェア in おいしい山形プラザ」で銀座デビューをしております。さらには、7月28日の岩沼インショップ尾花沢物産展など、市内外のイベントを含め、すでに18回、延べ57名が出演をしております。今後とも、イベント担当課からの要請に応じて各課に依頼するなど、参加職員の拡大を図りながら、尾花沢市の特産物等の情報発信に努めてまいりたいと考えております。

次に、発祥地の文化の継承についてのお尋ねでございます。今年の「おばなざわ花笠まつり」は、月・火の平日開催にもかかわらず市内外13万人の方々からおいでいただきました。28日の花笠踊り大パレードは天候にも恵まれ、多くのご観覧のみなさまの声援をいただき71団体約3,000名の勇壮華麗な発祥地の花笠おどりをご披露したところであります。

祭りの反省点とその反省を活かした今後の展望ということですが、今回まつりを観覧いただいた方やまつりの業務に従事した職員等にアンケート調査を行っております。また、関係者の方々のお意見等も頂戴し、それらを集約し、おばなざわ花笠まつり実行委員会に諮りながら、参加して楽しんでいただける「おばなざわ花笠まつり」を目指してまいりたいと考えております。

次に、発祥地としてのブランド強化でございますが、今年度も、これまで友好都市の岩沼市をはじめ交流都市やアンテナショップのある板橋区大山商店街、神奈川県大和市での観光PRや特産物販売と合わせて花笠おどりを披露するなど、多くの自治体に出向き花笠踊り発祥地の本場花笠踊りをPRしてきたところでございます。特に今年は第50回山形花笠まつり記念事業に源流花笠踊りの皆さんが招かれ、花笠踊りの発祥地「尾花沢市」を強くアピールしてきたところであります。

その他、各種行事・イベントでも伝統5流派の保存会の皆さんをはじめ多くの団体の皆さんのご協力を得ながら、本場の勇壮で華麗な伝統踊りを披露するなど、県内外に向けて広くPRすべく努めております。

まつりにおける集客のターゲットということですが、先ほど申しあげました各種イベントでの隣県や首都圏での本場の踊りを披露しての誘客活動に加え、隣県のメディア訪問や道の駅でのPR活動、さらには、みやぎ尾花沢会の皆さんへのチラシ送付などを行ってきたところであります。ターゲットを絞るということも確かに重要であると思いますが、祭りはやはり参加して楽しんでいただくことが原点にあると思います。その楽しんでいる姿が観光誘客につながっていくと思

っております。

特に今年度は、東北観光博の開催期間でもあり、復興を目指す東北地方へ関心の目が向けられております。この東北観光博を有効活用するうえでも、今後も各方面のイベント及び行事等に積極的に参加し発祥地の「花笠踊り」を大いにPRしていきたいと考えております。

次に、花笠の尾花沢での生産体制についてですが、花笠踊り発祥の地として、「花笠」を活かしたまちづくりを進めるため、市内事業者において平成21年度より3か年にわたりふるさと雇用再生特別基金事業を活用し、花笠製作の技術習得及びスゲ栽培・収穫を実施してきたところでございます。また、花笠おどり発祥地尾花沢でスゲの定植から笠づくりまでを実践する「花笠の里づくり」セミナーを雇用創造協議会事業として昨年度から開催しております。これは市内の事業所とシルバー人材センターが中心となり、生産体制の構築を目指すものであります。本年度は、雇用創造事業のセミナーとして、スゲ笠を自給するための栽培ノウハウの習得や製作技術のさらなる向上のため、先進地である飯豊町の中津川において視察研修を行ってまいりました。また、シルバー人材センターでは、昨年度より花笠づくり事業を開始しており、既に100個ほど今年の花笠パレードの踊り手に使用されたところであります。尾花沢の激しい踊りに耐えうる仕様の研究なども行っており、来年は250個を目標に取り組みたいとのことであります。将来は、ここ尾花沢がスゲ笠づくりの生産地に大きく成長し、名実ともに“雪とスイカと花笠のまち”になるものと期待をしております。

次に、行政が関るイベント告知、宣伝についてのお尋ねでございますが、お尋ねの背炙峠のカーナビによる案内に関しましては、県から幅員狭小の表示板を設置していただき注意を促しております。また平成22年8月には財団法人日本デジタル道路地図協会に対しまして、現況報告をもとに「山形空港方面から銀山温泉に向かう場合には県道29号線いわゆる背炙峠を利用せず市街地を通るルートを推奨されるよう」要望いたしております。

カーナビは電話番号によるルート検索も可能ですが、これにつきましてはタウンページを元に年1回データを更新しているところのお話を伺っているところでございます。

また、緊急事態のイベント会場対応や告知に関してもあります。特に屋外のイベントを開催するにあたっては、当然のことながら事前に天気予報等をチェック

しながら計画をしております。しかし、議員仰せのようにゲリラ豪雨や猛吹雪など予想しがたい、局地的気象現象の発生も否定できません。イベント開催中にこのような状況になった場合は、来場者の皆さんや参加者の安全・安心の確保を第一に考え臨機応変に対応してまいります。

また、インターネット時代の広報についてですが、市の情報につきましては、現在、市報、お知らせ版、各種チラシの他、ホームページを活用して市内外の皆様に発信しております。情報管理と迅速に発信できる体制の整備を図りながら、ホームページの内容や更新作業についての研修会を進めているところであります。

議員仰せのとおり、今、インターネット時代を迎え、情報の発信については、携帯端末にも対応したフェイスブックなどのソーシャルネットワークサービスを利用したものが、若者に限らず広がりを見せており、一部自治体においても取り入れられているようでございます。今後、より効果的な情報発信について検討してまいります。

今定例会より、議場に足を運び議会を傍聴できない市民の方に、議会の様子をインターネットで配信するインターネット議会中継を開始しております。市民の皆様への周知につきましては、9月1日の市報お知らせ版に掲載したところであります。また、市のホームページにおきましても8月21日より広報を行っております。

インターネットの接続環境にない方についてのお尋ねですが、各地区公民館におきまして、議会中継の視聴ができるよう、端末機を配置し整備に努めたところであります。周知につきましては、各地区公民館チラシにより広報しているところであります。また、録画中継につきましては、議会終了後おおよそ1週間後に配信サービスを開始いたしますので、時間的に生中継を視聴できない市民の方も視聴できるようになります。このサービスにより市民の方の市政への関心が高まればと考えております。なお、今後ともあらゆる機会を通じて啓蒙に努めてまいります。

次に、雪冷房に関するお尋ねですが、今年度当初の雪山計測値は2,600㎡で、昨年より大きな雪山がストックされたところであります。今年は特に、梅雨明け前から暑い日が続いていたこともあり、昨年よりも1週間早い6月22日から現在まで稼動しております。

雪冷房につきましては湿度が低いという特徴があり、雪冷房設置箇所と設置されていない箇所では、不快指

数で10ポイント以上の差が見られるなど、効果が実証されております。こうした効果を市民に周知してまいります。雪をストックするための経費や冷房を引き込むための配管などの経費も必要であることから、イニシャルコストやランニングコストの軽減策も含めて検討してまいります。

次に、市庁舎内における熱中症対策のお尋ねですが、現在冷房設備のない部署は、古い庁舎の1階と2階であります。特に2階のほうが室温、湿度ともに高い状況にありますが、対策としては扇風機を使った温度調整や換気、こまめな水分補給、クールビズの一環として通気性・吸湿性の良い「まつりTシャツ等」の着用などで体調管理を行っていただいております。近年、夏の猛暑が続いておりますが、来庁者の快適性確保や職員の事務能率の向上の観点から、全庁的な冷房設備の必要性を感じており、どのような方法が有効であるか十分検討してまいります。

次に、徳良湖温泉の雪冷房施設につきましては、雪のストックヤードである雪蔵を活用し「おくのほそみち尾花沢そば街道」の方々が、「最上早生」の玄そばを低温保存して、7月から雪室そばを提供してまいります。

太陽光発電につきましては、平成22年度にグリーンニューディール事業により導入したものであり、平成23年5月から本格稼働しております。本年6月末までの約13か月間の発電実績については、6,533.43kwhで5人家族の一般家庭が1年間に消費する電力量に匹敵するものであります。徳良湖温泉施設の太陽光パネルは屋根に取り付けてありますが、降雪期には発電が抑制されるため、壁掛け方式などの効率的な設置方法について「道の駅」や「共同福祉施設」で実証試験してまいりたいと考えております。

銀山温泉エリアにおきましては、現在、経済産業省資源エネルギー庁関連の一般財団法人「新エネルギー財団」により銀山川の「水力開発可能地点調査」が行われており、9月末の結果を待っているところであります。この結果によっては、再生可能エネルギーによる環境に配慮した観光地として銀山温泉を対外的にアピールできるなど、次世代エネルギーパークの拠点として売り出すことも可能ではないかと考えております。

以上、私から答弁させていただきましたが、詳細、また不都合な点は担当課長より答弁いたさせたいと思っております。

◎議長(菅根光雄議員)

総務課長。

◎総務課長（渡辺 修 君）

議会インターネット中継につきまして、ただ今市長が答弁をしたところでございますが、議員からは問題点、改善点についてのお尋ねがありました。インターネット中継を開始するにあたりましては、これまでホームページとか、広報等でお知らせをしてきたわけでございますが、その説明の中で視聴できる環境につきましては、Windows Media Videoというふうなものが再生できますと説明申し上げてきたところでございますが、対応する機種の中でMacintosh要するにMacの一部ご利用されている方については、その環境を整備しないとできないという部分の説明がなかったということで、昨日のうちにライブ中継を見れる対応をしたところでございます。ライブ中継も含めまして、今後議会終了後一週間後に録画中継も入りますので、音声とか映像関係を充分点検をすると同時にこの制度をより多くの方に視聴できるようにあらゆる機会を通じて啓蒙に努めていきたいというふうに考えてございます。以上でございます。

◎議長（菅根光雄 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子 議員）

大変丁寧な説明ありがとうございました。インターネット中継に関しましてですけれども、まだまだどういふふうにして見ればいいのかという質問を、実は昨日何人から聞かれまして、それを聞く場所ということでホームページには議会の事務局といふふうに明記されてあるんですけれども、是非わからない市民にまた問い合わせが来たならば、できるだけわからない人が尋ねているんだということを前提に、ていねいに説明していただきたいと思っております。市内で聞かれたときには私のほうもしっかりと、どういうことでできないのかも含め、きちんと対応のほうを伝えたいなと思っております。なかなかその機種依存とかそういうことがホームページ見てもわからない人のほうが多いかと思っております。ですので先程公民館で試聴ができるということをお話あったかと思うんですけれども、そちらのほうの対応も十分にお願ひしたいところです。

重ねて、もう少し質問したいことがあります。1つは一番最初の6次産業支援について、ごつつお3の活躍ぶり、わたしも想像以上にたくさん出動していかかなりの職員さんが特産隊に扮装して活躍なさったんだなということで、頼もしく思っているところです。職員の若手の皆さんから出たアイデアでそれが形になり、

さらにはばたいて銀座にまで行かれたということをお聞きまして、本当に今後のいろんな展開を考え、わくわくしているところです。ぜひ、夏場観光PRがかなり頻繁に尾花沢の場合すいかの販売さらには花笠のPRということで観光のキャラバン隊が人手不足、常に忙しい状態になっていると思いますので、できればその期間、他の部署の新しく入った新人の皆さんに他の部署の勉強と兼ねて、そのごつつお3のペセライエロー、ベゴブラック、スイカレッドそれぞれの特徴がたぶんあるかと思いますが、私も何度か見ましたが決めポーズがそれぞれ違いました。何か見ている、中にどんな方が入っているんだろうというよりはスイカレッド、ペセライエロー、ベゴブラックが、これから周り見ている方々にどんなりアクションをして楽しませてくれるのかということで、わくわくした次第です。ぜひ30何回も今年半年で出動しているということをお聞きしますと、簡単なアクションスクールではございませんが、きちんとしたキャラクター把握を職員の皆さんの中でも検討しまして、もっともっと元気な尾花沢を外に向かって発信していただきたいなと思っております。そういう課を越えた職員の体制というんですか、忙しい時に忙しい所のセクションを手伝うというような体制にはなっているのでしょうか、そこのところをお聞きしたいと思います。

◎議長（菅根光雄 議員）

総務課長。

◎総務課長（渡辺 修 君）

各種イベントにつきまして、その課の応援体制でございますが、これについては人員にもよりますけれども、特に祭りとかそういうような大きなイベント、4大祭り特に盛んに行われているわけですが、どうしても人員が不足してきますので、全課体制で動員計画を総務のほうに出していただいて、そして総務のほうから各課のほうに要請をしていくというふうな体制で臨んでございます。

◎議長（菅根光雄 議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子 議員）

ありがとうございました。ぜひですね、市役所の職員さんで足りない場合は、若い方でも着ぐるみに入りたいという一般市民の皆さんもいらっしゃるからお聞きしました。ぜひですね、そういう尾花沢を盛り上げるための応援隊というのを庁舎内の若手に限らず民間のほうからでも広く交流できるような、そんな広がりもぜひ考えていっていただきたいななんて思ったと

ころです。本当に期待されるところです。

次に、もう1つ深く質問したいところがございます。花笠まつり発祥地の文化顕彰ということで、どうしても私今年、昨年は震災のこともありましたので、徳良湖から土を運ぶ「どんつき」、これが今年も無かったということが非常に寂しいなと思ったところです。あと尾花沢には昔から小唄とか、さまざまな地域に根付く民間的に発生した唄も含めるとかなりの唄おどりがあります。花笠の源流、確かに5流派その他いろんな流派がぞくぞくと生まれてございますが、意外とそういう地域の良い唄や踊りなども含めて、今後どんどん発掘をしていっていただきたいなと思っております。それが尾花沢花笠まつりの全体の底上げにもなっていくのかなと、発祥地でメッカで踊りたいという市外からいらっしゃるお客様を含め、今年は3,000人という素晴らしい人数です。その中で本当に受け継いでもらいたい子ども達、地域の本当に子ども達にどういうふう伝えていくかも含め、各地区で残る唄や大事にしている踊りなどがあると思っておりますので、ぜひそのあたりもお考えにないかどうかお聞きしたいと思っております。

◎議長(菅根光雄議員)

商工観光課長。

◎商工観光課長(五十嵐与志一君)

お答えいたします。塩原議員のほうからは、まつりパレードの前に実施しておりました「土搗き」ですとか小唄等についてのお尋ねでございました。土搗きにつきましては22年の頃まで3年間ありますけれどもパレードの前に土搗き作業の実演をして、その後パレードに移っていった経過がございます。その後、まつりパレードへの参加者のお蔭様でどんどん増えてきまして、参加者が増加でありますとか、メイン通りの交通規制とのからみもございまして、土搗き作業をしなくなった経過がございます。ただ、議員仰せのとおり、これまで受け継がれてきた伝統を今後も引き継いで行っていただきたいとの提言を頂戴いたしましたけれども、まつりに参加して楽しいなというのが一番の目的でありまして、今後、中身、やり方等について実行委員会等でいろいろ検討して、よりよいまつりを目指していきたいというふうに考えております。以上です。

◎議長(菅根光雄議員)

塩原議員。

◎3番(塩原未知子議員)

ありがとうございました。本当に私も去年から踊って2年目、久しぶりに踊って2年目なんですけれども、

応援するよりも、やはり踊ったほうが100倍楽しかったです。もっとへとへとになるぐらい、草履がすり減るぐらいしっかり踊ると本当に充実感というか、最後にゴールにたどり着いた時の何とも言えない感動が、本当に今でも思い出されるところです。ですので、できれば色々な方々からまつりに参加できるというような内容の項目をどんどん増やして行って新しく考案する催し、あと昔こんなことやっていたということで掘り起こすのも良し、さまざま実行委員会のほうで検討していただき、ますます発祥地尾花沢の花笠まつりを広く世の中に伝えて行きたいなと思っております。よろしく願いいたします。

あと、また花笠のこだわりについてなんですけれども、笠のこだわりなんです、本当に今年は100組くらい笠のほう尾花沢産だというふうなことをお聞きしまして、大変素晴らしいことだなと思っております。ですが、3,000人踊っているわけですから、まだまだ数が足りないと思っております。あと、スゲの生育ってどうか、なかなか時間がかかるものだとお聞きしております。1年ではできず、2年、3年、もっとかかる場合も、大きな丈夫な笠の場合はもっともかかるかもというようなことを、作り手のほうからちょっと聞いたこともございますので、休耕田、もしありましたらそういったスゲがここに一杯群生しているんだよというのも観光資源になると思っております。尾花沢ならではの観光資源であると思っておりますので、ぜひこれから10年先、20年先考えまして、いろんな意味笠を皆さんオリジナルの尾花沢の笠でないとメッカでは踊れないくらい強気のまつりづくりをしていけたら、本当にまたここに生まれた意味も出てくるのかななんて思っているところです。どんどん時代とともにまつりというものは変化していくものだと思っておりますが、とにかく伝統であるという確固たる強く伝えられることが、やはり参加している私達から同じ口調で伝えられるように歴史であり、やり方であり、こだわりであり、そのあたりをきちっと精査しまして情報発信の中にも入れていっていただきたいなと思っております。とかく数でいうと、山形花笠の数からは、ずいぶん少ないなと思っておりますが、私にとっては3,000人が踊ったというあの町の中で、普段の静かな町の中で13万人もの方々が来ていただいた、それだけでも素晴らしいことなんだなと思っておりますので、ぜひ、どんどんそれを皆さんの楽しみ、さらに子ども達に伝える伝統として伝えていっていただきたいと思っております。

もう1つだけ質問させていただきます。次世代エネルギー



ーパークに関してですが、私、徳良湖温泉によくいます。大変良い温泉で、低温の温泉を沸かしているわけですが、ぜひこの太陽光パネルで5人家族が1年間暮らせるくらいの電力量だということだったので、もっと低温の温泉を温かくするような形の熱源として太陽光を使ったり、あとは冷風が止まって本当に残念なんですけれども、大変涼しい風が設立当初の頃は吹いておりましたので、今の雪室では大きさが小さいとか、今そばが入っているという説明ございましたけれども、徳良湖には広大な土地がたくさんありますし、駐車場もかなり広うございます。もっともっと雪の量を増やすと長く雪が持つということが、そこにあります雪山で今年見事に証明されたところですので、徳良湖に雪山があってそれを見に行く、それが再生可能エネルギーを勉強する第一歩みたいな形で、夏でも尾花沢の徳良湖に来ると雪が見れるというくらいたくさん雪を保有して、それをお風呂のほうの冷風にしてもいいのではないかなんて時々扇風機の前で思ったりしますので、ぜひ目先の何年か先とせず、10年先、20年先、花笠温泉がもっともっと集客できるような仕掛けづくりをしていただきたいと思いますと思いますが、そういうお考えは今回の新しい次世代エネルギーパークという中には入ってございますか。

◎議長（菅根光雄議員）

新エネルギー推進室長。

◎新エネルギー推進室長（菅野他人男君）

はい、お応えいたします。次世代エネルギーパークと申しますのは、新エネルギーとかそういうものに体験することによって、日本のエネルギー問題を考えることによって考えてみるというソフト事業的なものでございますが、それを利用して花笠の湯の集客等に少しでも寄与できるものがあるとすれば、先般市長のほうからもございましたが、庁内の導入委員会とその中で検討させていただいて、効果も勉強させていただければと考えております。

◎議長（菅根光雄議員）

塩原議員。

◎3番（塩原未知子議員）

ありがとうございました。大変希望の持てるご答弁だったと思います。本当にここの庁舎もそうですけれども、涼しい風が吹きますが、まったく風が無いときには本当に暑く、辛い今年の猛暑でございました。熱中症対策のことを先程お聞きしましたけれども、本当に大事が無かったということでホッとしているところなんです、庁舎の中も含め、大変老朽化している設

備さまざまあると思いますが、どうぞ体調管理には十分に気を付けてまして部屋の中でも熱中症っていうのはなると聞いておりますし、私も実は一度車の出入りの状態をあまり涼しい状態にない時に、かなり辛く吐き気、さらには悪寒が走り、それが後で聞いた形では熱中症に近い症状だったということしをお聞きしまして、簡単な1時間2時間でもそんなことになり得るんだなということで勉強になりました。ですので、ぜひ本当にいろんな形自然のエネルギーを使って尾花沢のいろんな今ちょっとやっかいだな、困ったなというところが解消されるようなまちづくりを今後もぜひ、先程言った検討委員会では十分検討なさっていただいて、夢と希望がある尾花沢にして行っていただきたいと思っております。以上私の質問はこれで終わります。ありがとうございます。

◎議長（菅根光雄議員）

以上で、塩原未知子議員の質問を打ち切ります。